

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成23年第Ⅲ四半期（7月～9月）

設備投資：慎重な姿勢が続く

採算状況：ほぼ横ばいで推移

資金繰り：やや悪化

雇用人員：「過剰」感がやや弱まり、均衡に近づく

## 《 概要 》

**設備投資**：設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成23年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は15.7%と、前期（平成23年4～6月）の15.6%からほぼ横ばいで推移し、依然として慎重な姿勢が続いている。

また、来期（平成23年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合は15.0%と、当期実績に比べわずかに減少する見通しとなった。

**採算状況**：当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）で見ると、▲25.7（前期▲25.6）と、前期からほとんど変化がなかった。

**資金繰り**：当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲33.4（前期▲32.6）と、やや悪化した。

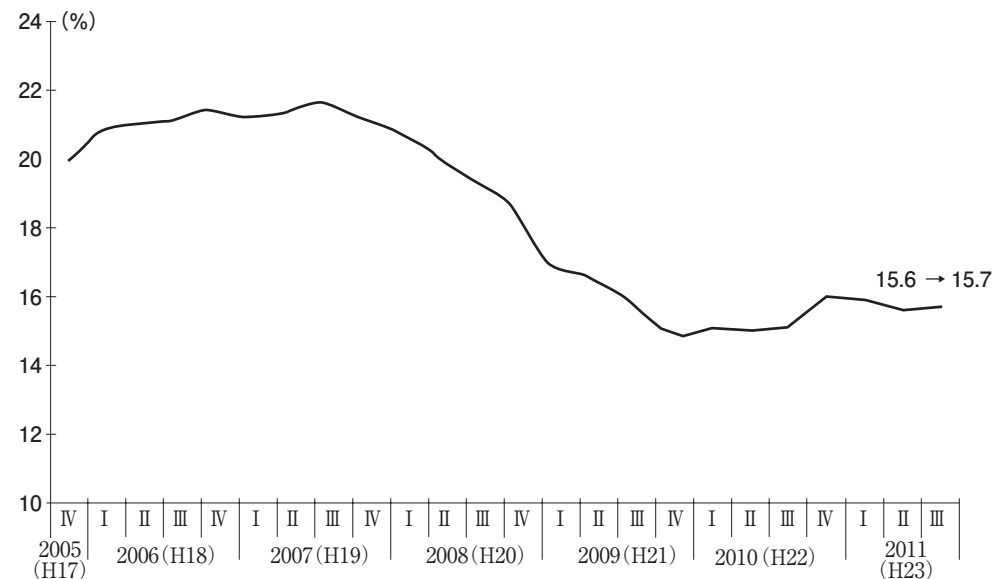
**雇用人員**：当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、▲1.6（前期▲3.2）と「過剰」感がやや弱まり、均衡を示すゼロ値に近づいた。

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成23年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は15.7%と、前期（平成23年4～6月）の15.6%からほぼ横ばいで推移し、依然として慎重な姿勢が続いている。

また、来期（平成23年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合は15.0%と、当期実績に比べわずかに減少する見通しとなった。

図表1 設備投資の実施割合（全体） —後方4四半期移動平均—

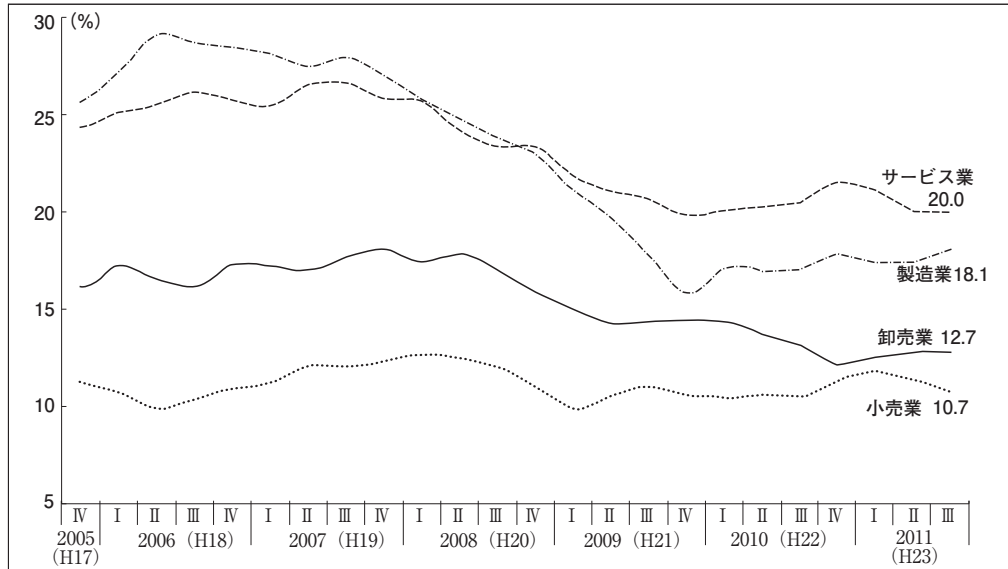


<注>来期（平成23年10～12月）の設備投資の予定については図表には記載していない。

業種別にみると、製造業18.1%（前期17.3%）のみが2期連続で増加した。卸売業12.7%（前期12.8%）、サービス業20.0%（前期20.0%）はほぼ横ばいで推移し、小売業10.7%（前期11.2%）は2期連続で減少した。どの業種も小幅な動きであり、設備投資に対する慎重な姿勢が続く。

また、来期（平成23年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合は、製造業のみが20.1%と引き続き増加する見込みとなっているが、卸売業10.7%、小売業8.4%、サービス業18.8%と減少する見込みであり、設備投資に対する慎重な姿勢がうかがえる。

図表2 設備投資の実施割合（業種別） —後方4四半期移動平均—

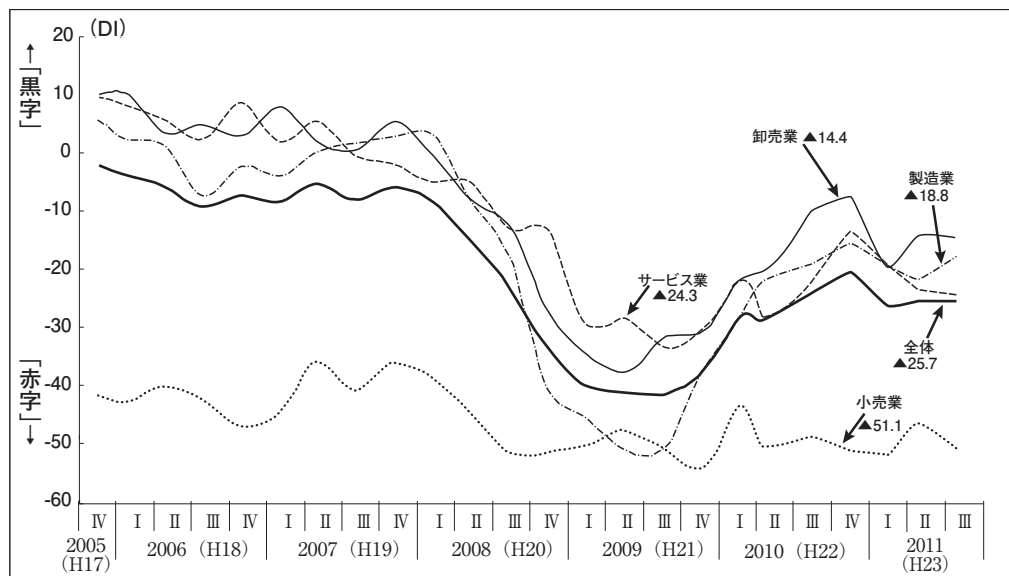


<注> 来期(平成23年10~12月)の設備投資の予定については図表には記載していない。

■採算状況■

当期の採算状況を採算DI（「黒字」 - 「赤字」）でみると、▲25.7（前期▲25.6）と、前期からほとんど変化がなかった。

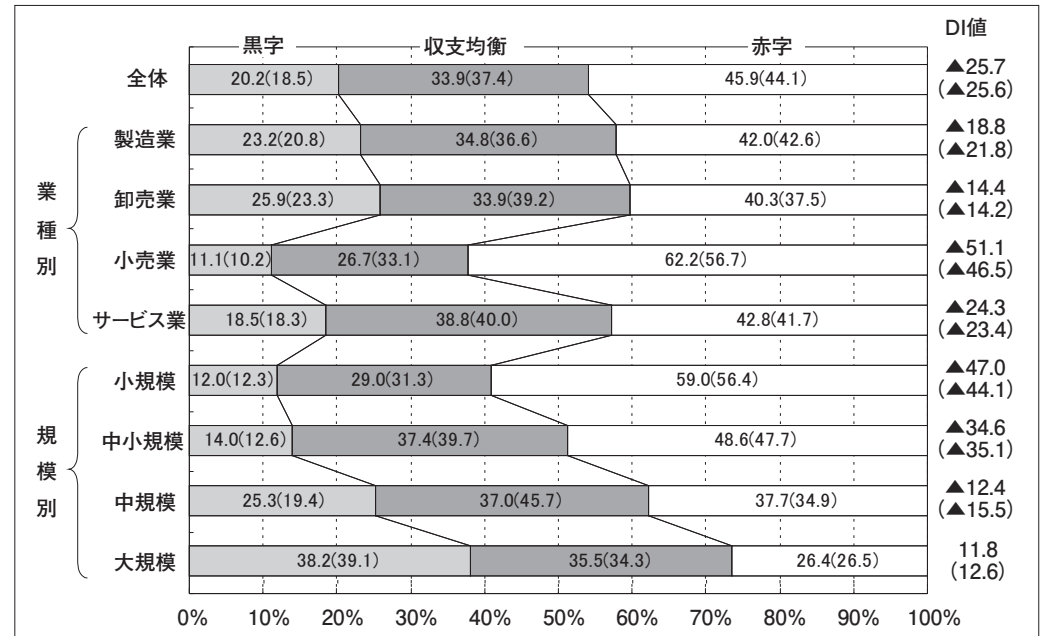
図表3 採算DIの推移



業種別にみると、製造業▲18.8（前期▲21.8）のみ改善した。前期は改善した卸売業▲14.4（前期▲14.2）、小売業▲51.1（前期▲46.5）は悪化に転じ、サービス業▲24.3（前期▲23.4）は3期連続で悪化した。

規模別にみると、中小規模▲34.6（前期▲35.1）と中規模▲12.4（前期▲15.5）で改善し、小規模▲47.0（前期▲44.1）、大規模11.8（前期12.6）で悪化した。採算DI値は規模が大きくなるほど大きくなり、大規模では「黒字」38.2%が「赤字」26.4%を上回り、採算DI値が唯一プラスになっている。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



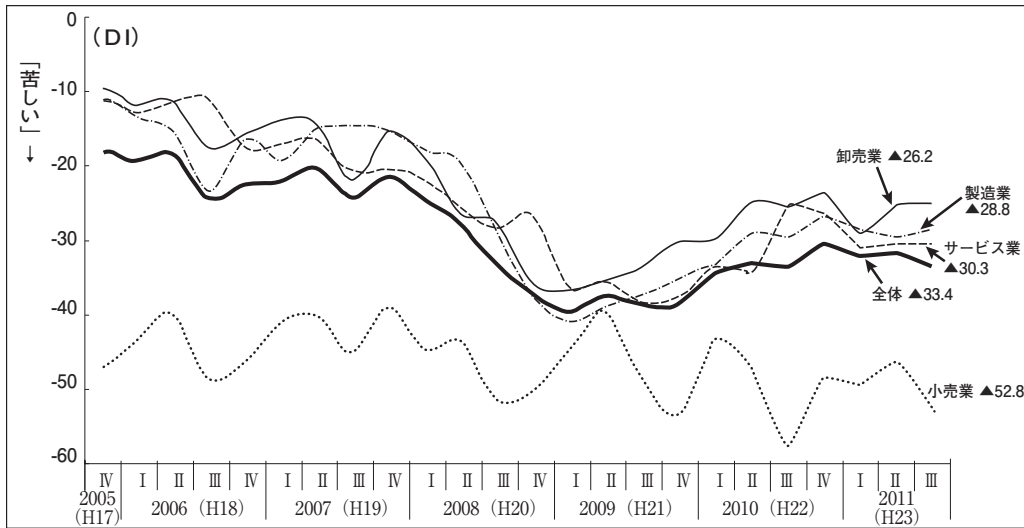
<注> カッコ内は前期(平成23年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」 - 「苦しい」）でみると、▲33.4（前期▲32.6）と、やや悪化した。

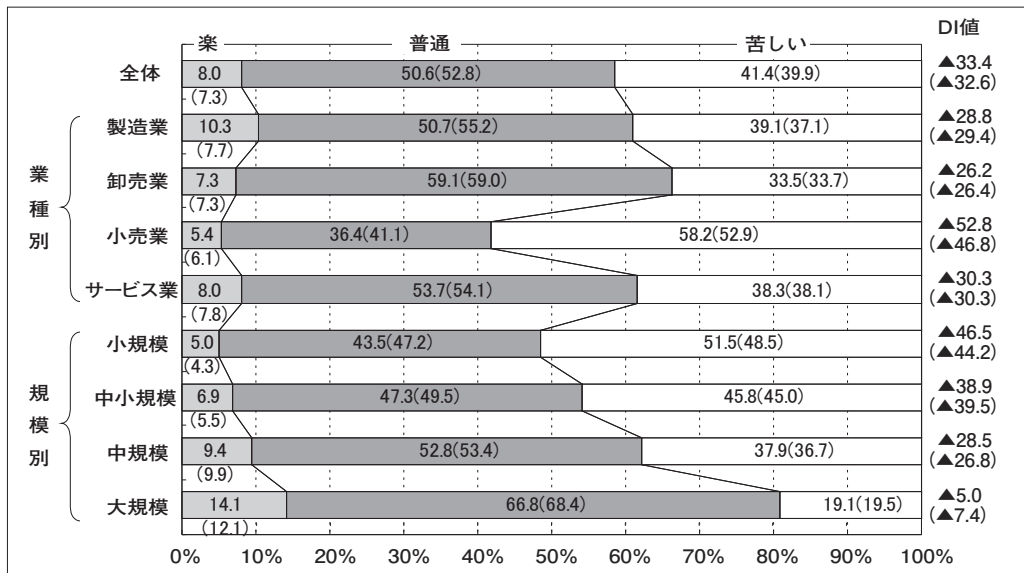
業種別にみると、製造業▲28.8（前期▲29.4）、卸売業▲26.2（前期▲26.4）はやや改善し、サービス業▲30.3（前期▲30.3）は横ばいだった。小売業▲52.8（▲46.8）のみ悪化し、他業種より低い水準で推移している。

図表5 資金繰りDIの推移



規模別にみると、中小規模▲38.9（前期▲39.5）、大規模▲5.0（前期▲7.4）で改善し、小規模▲46.5（前期▲44.2）、中規模▲28.5（前期▲26.8）で悪化した。規模が小さくなるほど資金繰りが「苦しい」とする企業が多く、資金繰りが厳しい状況にあることがうかがえる。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

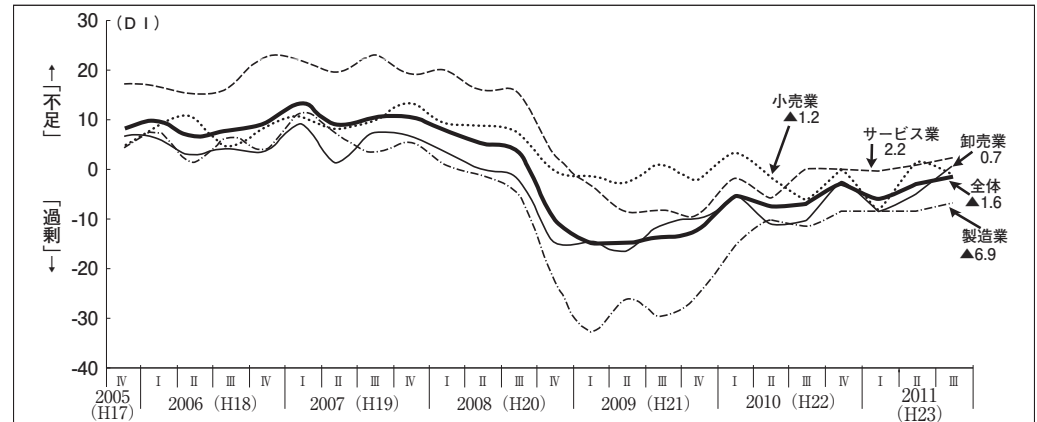


<注>カッコ内は前期(平成23年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、▲1.6(前期▲3.2)と「過剰」感がやや弱まり、均衡を示すゼロ値に近づいた。

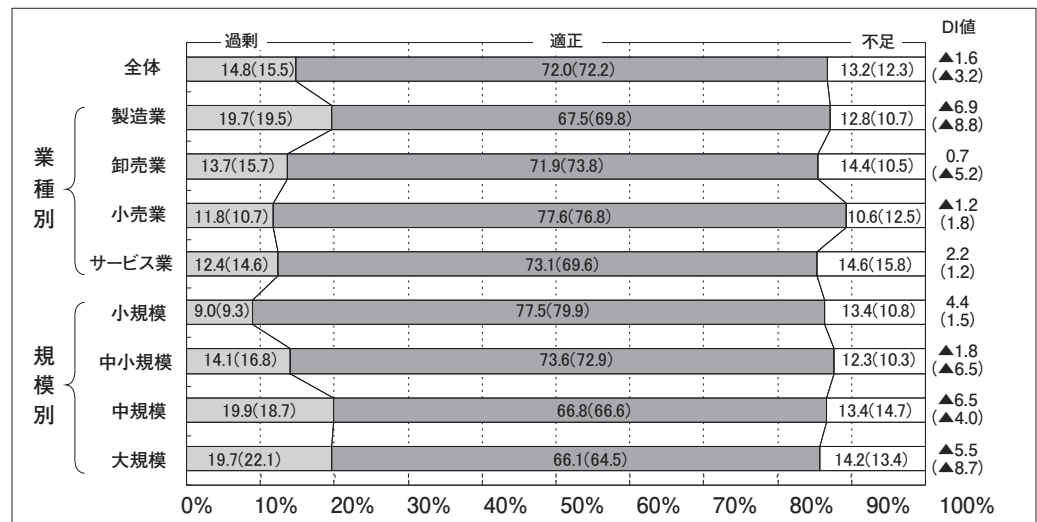
図表7 雇用人員DIの推移



業種別にみると、製造業▲6.9（前期▲8.8）、卸売業0.7（前期▲5.2）、サービス業2.2（前期1.2）で「過剰」感が弱まり、卸売業とサービス業では「不足」となっている。一方、小売業▲1.2（前期1.8）は「過剰」に転じている。

規模別にみると、中規模以外の3規模で「過剰」感が弱まり、小規模では「不足」感がやや強くなっている。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



<注>カッコ内は前期(平成23年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。